5 月 21 日のメッセージ

聖書：マタイによる福音書　28：　16 – 20

「世の終わりまで、いつも共にいる」

復活されたイエスは弟子たちと 40 日間、共に過ごされ、多くのことを教えられました(「イエスは苦難を受けた後、御自分が生きていることを、数多くの証拠をもって使徒たちに示し、四十日にわたって彼らに現れ、神の国について話された。」使徒言行録 1:3)。神の国について、救いについて、愛について、etc. イエスがこの地上での最後の時に教えられたことは、きっと弟子たちの心に多くのものを残したことでしょう。

多くを教えた上で、イエスは命じられます。

「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。」(マタイによる福音書 28:18-19)

これまで教えてこられたことを、これまで陰に陽に生き方によって示してこられたことを、一人自分のものとしてとどめることなく、全ての隣人に伝えなさい。喜びの知らせを語り続けなさい、と。そして、イエスは地上での活動を全て終えられて、天へと上げられました(「こう話し終わると、イエスは彼らが見ているうちに天に上げられたが、雲に覆われて彼らの目から見えなくなった。」使徒言行録 1:9)。

イエスの思いを受け止めた弟子たちは早速動き出します。自分たちの歩みを振り返れば、イエスが選ばれた 12 人はユダを失い、一人欠けています。働き手を増やさねばなりません(「そこで、主イエスがわたしたちと共に生活されていた間、つまり、ヨハネの洗礼のときから始まって、わたしたちを離れて天に上げられた日まで、いつも一緒にいた者の中からだれか一人が、わたしたちに加わって、主の復活の証人になるべきです。」使徒言行録 1:21)。

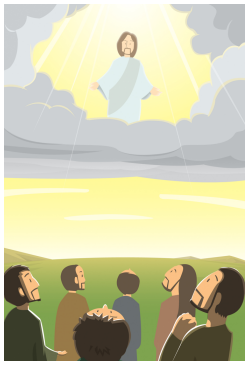
くじ引きの結果、マティアが選ばれました(「二人のことでくじを引くと、マティアに当たったので、この人が十一人の使徒の仲間に加えられることになった。」使徒言行録 1:26)。くじ引きは、あらかじめ決められている神の意思を問う手段です(「サウルはイスラエルの神、主に願った。『くじによってお示しください。』くじはヨナタンとサウルに当たり、兵士は免れた。」サムエル記上 14:41)。だから、この選びは偶然などではありません(「あらかじめひとりの人を遣わしておかれた。奴隷として売られたヨセフ。」詩編 105:17)。

新たな力を増し加えられた群れは、ますます豊かに神の栄光を宣べ伝えたことでしょう。もっとも、その歩みが全て順風満帆であったとも思えません。絶えず壁にぶつかり、様々な妨害が待ち受けていたことでしょう。

それでも、ひるむことなく彼らが歩むことができたのは、もちろん、「イエスが命じられたから」ではあったでしょうが、それ以上に、彼らを支える「ひと言」があったからに違いありません。

「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」(マタイによる福音書 28:20)

姿は見えないかもしれません。しかし、確実にイエスは弟子たち一人ひとりと共に歩んでおられるのです。それは、神がその神殿におられ、イスラエルの民と共に歩まれたあの時と同じです(「彼はわたしに言った。『人の子よ、ここはわたしの王座のあるべき場所、わたしの足の裏を置くべき場所である。わたしは、ここで、イスラエルの子らの間にとこしえに住む。』」エゼキエル書 43:7)。主の栄光が神殿を満たし、この世界をあまねく照らしていたのと同様、弟子たちの心にも光が射しています。



「収穫は多いが、働き手が少ない。」(ルカによる福音書 10:2)

神は今、私たちをも働き手として招いておられます。そして、私たちもきっと、臆することなくその呼びかけに応えることができることでしょう。

なぜなら、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」と宣言される主が、私たちともまた、今も共におられるのですから。